



# 結婚、卵子提供で出産

「誰にでも笑顔を振りま  
く、明るい息子です」

熊本市に住むターナー症  
候群の山下真澄さん(44)  
は、元気に動き回る長男の  
秀真君(1)を抱きしめた。  
結婚して10年。妹から卵子  
提供を受けて出産した。

「本来なら、授かるはず  
のなかった命。産めるよう  
力を貸してくれた人たちに  
感謝しています」

23歳で病名を知った。子  
どもを作るのは難しいと説  
明され、絶望した。「病気

のせいで不幸になりたくな  
い」。心の中にいつも葛藤  
があった。その後、しばら  
く交際相手はおらず、男性  
への苦手意識があった。

2000年、米シカゴで  
開かれたターナー症候群の  
国際会議に参加した時、欧  
米の患者たちが明るく、パ  
ートナーと一緒に来ている  
のを見て驚いた。「みんな  
落ち込んでいない。彼氏が  
いることも普通なんだ」  
この頃、夫の賢さん(43)  
と出会った。不思議と気が

合い、自然体でいられた。

「結婚するなりこの人」。  
付き合ってから半年、思い切っ  
て「私は子どもができない」  
と打ち明けた。「1週間悩  
んだ」と賢さん。ただ、互  
いがいない人生は思い描け  
ず、一年半後に結婚した。

ターナー症候群の女性の  
多くは、卵子をつくる卵胞  
の大半が思春期前に消失す  
るため、自然妊娠はごくま  
れだ。ただ子宮は正常なた  
め、女性ホルモンを補充し、  
卵子提供を受けられれば、  
妊娠や出産が可能な場合も  
ある。

親族や海外の第三者から  
の提供を受け、出産した例  
もある。海外では、不妊治  
療の選択肢として第三者か  
らの卵子提供を認めている  
国もあるが、国内ではルー  
ルが定められていない。

こうむら女性クリニック  
(大阪市)の院長、甲村弘  
子さんは「結婚し、出産を

希望するターナー症候群の  
女性は増えている。早急な  
法整備が望まれる」と話す。

夫は「子どもがすべてじ  
ゃない」と言ってくれたが、  
山下さんは諦めきれず、妹  
に卵子提供を頼んだ。3回  
目の体外受精で妊娠した。

この病気では、先天的に  
心臓に持病のある人がお  
り、米国では大動脈解離に  
よる妊産婦死亡が複数報告  
されているという。甲村さ  
んは「リスクが高いため、医  
療体制が整った病院で産む  
ことが大切だ」と指摘する。  
山下さんは帝王切開で出  
産した。出産後、心拍数が  
跳ね上がり、危険な状態だ  
ったが、「病気に負けなかつ  
た」。涙がこぼれた。

秀真君には、遺伝学的な  
親と産みの親がいる。夫妻  
は、そのことを伝えながら  
育てている。「将来、息子  
は悩むかもしれないけど、  
親子の絆で乗り越えたい。  
命に代えてでも産みたいと  
思った命。たくさん愛情を  
注いでいきたい」



妹から卵子提供を受けて出産した  
山下さん(左端)(熊本市で)